

山口県山口市地福地区

販売店舗を拠点とした、共感を呼ぶ持続可能な地域づくり

JAスーパーの撤退を契機に、その店舗を引き継ぐかたちで地域のよりどころとなる商店(食料・日用品販売)を地域で継承して運営。移動販売による買い物支援事業を中心に、販売車が巡回時に高齢者の困りごとやニーズを丁寧に聞きとり、その情報を手掛かりに次の事業を組み立てることで、サロン活動、介護予防などの高齢者福祉事業を充実させています。



Step 地域運営の仕組みづくりのステップ

step.1 共有

JAスーパーの撤退を契機に地域の話し合いを開始

有志の発意により「地福ほほえみの郷運営協議会」を立ち上げ、地域の将来についての話し合いを開始しました。

step.2 計画

地域の将来ビジョンと計画を策定

話し合いの結果をもとに、同協議会メンバーおよび地域住民で、地域の将来ビジョンとして「地福ほほえみの郷構想」を策定し、販売店舗、交流スペースを核とした地域のよりどころづくりを盛り込みました。

step.3 実践

住民意識の変化と、ほほえみの郷トイトイのスタート

販売店舗、交流スペースを拠点としたよりどころづくりについて、21の自治会で説明会を実施。当初は実現を疑問視する意見もありましたが、丁寧に意見交換を続けた結果、ほぼ全世帯からの寄付金が集まるなど、住民の理解を得ることができ、小売店「ほほえみの郷トイトイ」がオープンしました。その後、買い物支援として移動販売も開始し、地域を回るかたわら、高齢者の困りごとやニーズを聞き取り、新たな高齢者支援の取組に反映させていく仕組みを構築しました。



step.4 体制

運営団体を法人化して取組を充実

収益事業を円滑に運営していくため、「NPO法人ほほえみの郷トイトイ」を設立。住民のニーズから、総菜加工・販売事業や地域食堂の運営なども開始しました。

step.5 発展

総合的な地域支援の仕組みづくりへ

今後は、移動販売車での貨客混載や、ライドシェア(アプリを活用して車の相乗りをマッチング)、企業との連携によるICTを活用した移動支援予約システムの構築などの様々な手法を検討し、高齢者の移動支援の仕組みを総合的に整備していくことを目指しています。

これまでの地区の歩み

- H22 有志の発意により「地福ほほえみの郷運営協議会」を立ち上げ「地福ほほえみの郷構想」策定
- H24 小売店を継承し運営開始
- H25 移動販売を開始
- H26 「NPO法人ほほえみの郷」設立 地域食堂の運営などを開始

Data 人口1,230人(高齢化率49.3%) ※平成27年国勢調査



- 地域の特徴
- ・山口市中心部から車で約30km、40分程度
- ・標高約300mの農村地帯で集落がまばらに点在



Pick up

取組 1

住民の力で地域の買い物拠点を確保! 食料・日用品小売店「ほほえみの郷トイトイ」を運営



平成24年から食料・日用品小売店「ほほえみの郷トイトイ」の運営を行い、地域の高齢者等の買い物拠点を確保しています。建物内には惣菜の加工施設なども併設されているほか、地元の人が育てた野菜の直売コーナーを設け、近隣で野菜をつくる高齢者等の生きがいづくりになる取組もしています。この店舗はバス停のすぐ近くにあることから、病院通いの高齢者等が気軽に立ち寄り、言葉を交わす交流場所にもなっています。

NPO法人ほほえみの郷トイトイ

- 《経済事業》
 - 食品・日用品小売店の運営
 - 惣菜加工・販売
 - 移動販売 など
- 《高齢者福祉事業》
 - 地域食堂の運営
 - 介護予防活動 など
- 《その他》
 - 空き家活用(定住促進)など

関係・情報共有

地福地域づくり協議会

ほほえみの郷トイトイが立地する地区の住民代表で構成される協議会。トイトイと連携し幅広く地区活動を展開。

阿東地域づくり協議会

地福を含む阿東地域の6地区で構成される協議会。防災、福祉、交流など広域で実施が必要な取組を展開。

step.1 課題

JAスーパーの地福地区からの撤退が決まり、高齢者を中心に地域の危機感が一気に高まり、地域内での話し合いが始まりました。

step.2 計画

話し合いの結果をもとに、運営母体となる法人を設立して小売店の運営や移動販売を中核とした各種事業を展開していく構想を練り、住民への説明会を丁寧に行って寄付を募りました。それを原資に、平成24年から小売店「ほほえみの郷トイトイ」の運営を開始しました。

step.3 トライ

その後はこの販売店舗を拠点に、イベントスペースの提供や地域食堂の運営など、様々な生活支援事業を展開しています。スタッフは経営者を含め給与制で運営されており、若いスタッフを含めUターン・Iターン者などの雇用の場になっています。

step.4 これから

店舗運営開始の翌年から開始した移動販売とあわせ、NPO法人ほほえみの郷が手がける収益事業はすでに採算ベースに乗っており、次世代への経営の引継ぎの見通しも可能になってきていました。今後は移動販売の広域化を図るなどにより、さらに採算性を高め、収益性が見込みにくい高齢者の移動支援などの新たな事業を展開していくことを計画しています。

地域の声

移動販売車のスタッフとはよく会話をします。欲しい商品のことだけでなく、普段の困りごとや生活の状況などの話ができます。



Pick up

取組 2

移動販売による買い物支援 販売車で地域をまわりながら、 高齢者の困りごとやニーズを把握

小売り事業の中核事業として、平成25年より移動販売を始め、現在は2台の車両で地域内を週5日巡回し、食品や総菜などを販売しています。若いスタッフが2人1組で動いており、「モノを売るより、会話を大切に」を合言葉に、物販とともに高齢者の困りごとやニーズなどをヒアリングし、地域の状況把握に努めています。現在は地福地区だけでなく、近隣の地域まで足を伸ばして販売活動を行っており、売上の拡大を図っています。



Point 移動販売が地域の実情を知るアンテナとして機能

ほほえみの郷トイトイでは、移動販売をモノを売るだけの収益事業として捉えるのではなく、地域の高齢者の困りごとやニーズを把握するための大切な機会と捉え、買物客とのコミュニケーションを最も重視して、移動販売事業に取り組んでいます。こうして集めた情報を、次の事業を組み立てる手がかりにしており、高齢者からあがった生の声をもとに、サロン活動、介護予防活動などの高齢者福祉事業の充実を図っています。



住民の声から具体的な取組に

「ほほえみの郷トイトイ」では、店舗運営のスタッフが、サロンや生涯学習など、交流スペースを利用した各種活動の充実にも取り組んでいます。当スペースでは、週2回の健康体操やゲームを楽しむ週2回の高齢者向けサロンのほか、高齢者や子どもたちが集う世代間交流を狙った「地域食堂」の運営なども行っています。このほか、高齢者が交流しながら簡単な手仕事をやる機会も設けていますが、これは「もっと働きたい」という高齢者の声を聞いて始めた事業です。



取組 3

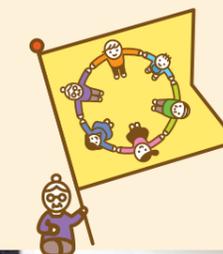
惣菜づくりで収益アップ! 地域の女性の活躍による惣菜の加工・販売

平成26年にNPO法人ほほえみの郷トイトイを設立後は、食品や日用品販売を行う小売店や移動販売の収益を伸ばすために、惣菜加工にも取り組み始めました。地域の女性グループ20名がその取組に賛同し、毎日4人体制を組みながら、当初は有償ボランティアで惣菜づくりを始めました(現在は賃金制)。彼女たちがつくる惣菜は小売店・移動販売の人気アイテムとなっており、惣菜だけで年間1,400万円近くの売上となっています。



Report プロセスを大切にした地域づくり

“共感によるつながり”を合言葉に、 ふれあいを重視した地域づくりを実践!



地域づくり協議会との連携

地福地区には住民代表による協議会「地福地域づくり協議会」があり、地域からJAスーパーが撤退したときに、この地域の将来構想である「地福ほほえみの郷構想」をまとめたのは、この協議会でした。NPO法人ほほえみの郷トイトイの理事には、地福地域づくり協議会のメンバーもおり、適宜、情報を共有するなど協議会とNPO法人は常に良好な関係を保っています。また、近年は近隣地区への移動販売が広がりを見せていることから、地福地区を含めた広域の協議会である阿東地域づくり協議会との連携を強化しています。



徐々に変わっていった住民意識

当初はなかなか住民からの理解が得られなかった店舗運営の計画ですが、何度も丁寧な説明を続けた結果、ほとんどの世帯から寄付金が集まり、取組が実現しました。その後は住民の意識がポジティブなものに変わり、「手伝えることがあれば、何かするよ」といった声が多く聞かれるようになっていきます。住民からの理解と協力を早い段階から取りつけられていることが、ほほえみの郷トイトイが様々な取組を進める際の強みとなっており、共感による住民のつながりが地域づくりを支えています。

若い人材が活動を支える

NPO法人ほほえみの郷トイトイはフルタイム6名、パートタイム2名のスタッフで運営されており、その人件費はすべて事業収益から捻出されています(市の交付金等はありません)。フルタイムスタッフの中の1名が、実質的な経営の舵取りを行っており、他のスタッフはみな20~40代と若く、地域外からの移住者もそこに含まれています。ほほえみの郷トイトイの存在は、若者の雇用の場としても機能しています。